

2026 年 8 月 26 日

【XCR スプリントカップシリーズ 第 5 戦 / 北海道厚真町】
XC2 の番場選手／藤田選手組が圧勝、全 5 クラスで GEOLANDAR 勢が優勝を飾った!!



クロスカントリーと SUV 車両によって競われる「XCR スプリントカップシリーズ」は、本州での 2 戦を終えて北海道へ再び戦いの舞台を移した。全 7 戦のカレンダーも後半戦、第 5 戦は厚真町が舞台の「RALLY EAST-IBURI 2026」。8 月 22 日(土)～23 日(日)の開催で、日曜日に全 5 本のスペシャルステージ(SS)、合計距離 33.60km のグラベル(未舗装路)コースで競われた。

設けられた SS は 3.51km の「TOMIUCHI 2nd」と 8.86km の「RUBESHIBE」、前者を 2 回、後者を 3 回走行するアイテナリー。お盆を過ぎて北海道には秋の香りも漂い始め、厚真町の最低気温は 18.0℃、日中の最高気温は正午に 27.3℃を記録して真夏日となったが、猛暑が続く本州よりは過ごしやすい一日となった。

YOKOHAMA/GEOLANDAR 勢が強さを見せ、XCR 最速の戦いを繰り広げているのが XC2 クラス。優勝争いは今回も、YOKOHAMA/GEOLANDAR 勢の 3 台による三つ巴の展開となる。

戦いは SS1「TOMIUCHI 2nd 1」で幕を開けたが、幸先よくステージベストを刻んだのは番場彬選手／藤田めぐみ選手組(トヨタ・ハイラックス)。ところどころ舗装区間も混ざりテクニカル、かつ路面には砂や小石が乗って滑りやすいという、短いながらも攻略が難しいステージだが、マナ・ポーンサリーチョート選手／キティサック・クリンチャン選手組(トヨタ・ハイラックス)を 2.4 秒上回る速さでトップに立った。

オープニングステージを制して勢いに乗った番場選手組は、続く SS2「RUBESHIBE 1」を、マナ選手組よりも 1km あたり 1 秒近く速いタイムで駆け抜けて、その差を 10.8 秒に拡大。ストレートが主体のフラットなステージで、「TOMIUCHI 2nd」とは大きくキャラクターの異なる道であったが、ともに 1 回目を制したことで完全に主導権を握る流れとなった。

給油と 30 分間のサービスをはさんで競技は後半に突入、ロングステージのリピートとなる「RUBESHIBE 2」も番場選手組が速さを見せてマナ選手組との差を 5.1 秒拡大。その差が 18.3 秒となり、残る 2 本のステージは合計距離が 12.37km で 1km あたり 1 秒以上のマージンを構築したことから、番場選手はペースコントロールもしながらフィニッシュを目指していく。

SS4「TOMIUCHI 2nd 2」はマナ選手組が1.6秒先行して番場選手組の連続ステージベストこそ途絶えたものの、戦いの締めくりとなる最終ステージ「RUBESHIBE 3」でこの日4回目のベストタイムをマーク。最終的には29.2秒という大差をつけて番場選手は今シーズン3勝目を飾り、次戦の「RALLY HOKKAIDO」にシリーズ5連覇をかけて臨むこととなった。

準優勝はマナ選手組、そして3位には柳澤宏至選手／加勢直毅選手組(三菱・トライトン)が入り、YOKOHAMA/GEOLANDAR勢は開幕から全戦で優勝を飾るとともに、3戦連続で表彰台を独占した。



このほか、XC2Sクラスの浅井明幸選手／古川和樹選手組(三菱・アウトランダーPHEV)が、第3戦から投入したアウトランダーPHEVで初優勝を飾り、2戦を残してシリーズチャンピオンを確定。XC3クラスの奈良裕選手／KAWA選手組(スズキ・ジムニー)、XC1クラスの惣田政樹選手／猿川仁選手組(三菱・デリカD:5)、XC3Sクラスの大塚祐樹選手／HANA選手組(トヨタ・ライズ)もそれぞれ優勝を飾り、YOKOHAMA/GEOLANDAR勢が5つのクラス全てで優勝を飾って強さを見せた。

■ 番場 彬 選手 (CUSCO YH ジオランダーハイラックス)

タイでのアジアクロスカントリーラリー(AXCR)から帰ってすぐのXCR参戦となりましたが、戦い方の切り替えが上手く出来ました。AXCRに対してXCRは距離も短いですし、ペースノートのギリギリを攻めていく感じになるのですが、全体的にロスなく最初からプッシュして行きました。

レッキ(下見走行)では距離が短い「TOMIUCHI 2nd」のステージ、ここは下り主体ですが難しい道と感じました。みんなは最初少しおさえるだろうと思ったので、自分たちはプッシュするまでは行かなくとも、おさえるのは止めようと思って走ったのですが、それがベストタイムにつながりましたね。ただ、距離が長い「SHIRIBESHI」はマシンのパフォーマンス的にマナ選手が有利で、僕たちは『SHIRIBESHI』で負けて『TOMIUCHI 2nd』で取り返す展開になるかも」という気持ちでいたのですが、プッシュして攻めた結果が連続ステージベストになりました。

そしてSS3もベストであがって「このラリーはもらったな」と手応えがあったのですが、差が開いたことでSS4はプッシュするのを止めたら負けてしまっ……。ただ、それでも差は大きかったので、最終ステージはプッシュしたわけではないのですが、とにかく楽しみながらハイスピードを攻略して優勝することが出来ました。最後は、差が大きいからと言って単に流して勝ってもつまらないですし、自分の経験値にもならないので、リスクを冒さない範囲でメリハリをつけたドライビングで走りきりました。

これで、次戦の「RALLY HOKKAIDO」にチャンピオン確定の可能性を持って臨みます。家族も応援に来てくれる予定なので、しっかり勝てるように頑張ります!!